

2023年度 町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2024年3月8日（金曜日）15時～17時

○場 所 町田市庁舎 2階 会議室2-4

○出席者 出席委員： 西田司委員長、川原晋委員、富田莉莉委員、
城孝明委員、杉森俊彦委員、安本達式委員、亀田文生委員
欠席委員： 安達廣美委員、和田圭司委員
傍聴者： なし
事務局： 観光まちづくり課長
他事務局3名

○資 料

- 1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
- 2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
- 3 町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト 2022～ウィズコロナ戦略～
- 4 2023年度観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

○次 第

1 開会あいさつ

経済観光部長・唐澤祐一より挨拶

2 町田市観光まちづくり推進委員会について

- ・委員会概要説明及び委員自己紹介
- ・委員長・副委員長の選任

3 議題

- (1) 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について
資料3及び資料4に基づき、事務局から項目別に説明。

委員からの主な質問・意見等

【1-1 「町田薬師池公園四季彩の杜」を町田のシンボルに】

・9つの施設と協働してイベントを実施したが、賑わいはコロナ前に戻った印象。春フェアでは、ダリア園で「INMOTION」の乗車体験イベントを開催。花のない季節でも施設に遊びにきてもらえるような工夫をした。足湯については、伊豆の長岡から温泉を運んできて、薬師池を見ながら温泉に入れると

いう珍しいイベントを開催。キッチンカーの数が、前年の2倍以上に増えた。秋遊びでは、紅葉のライトアップやプロジェクションマッピング、お香、薬師池水面に霧を発生させること等を実施。年々少しずつバージョンアップさせている。

・四季彩の杜は、町田市の観光拠点。ブランディングの視点から言うと、イベント1個が場当たりのにならないように注意が必要。
四季彩の杜の目指すところ「四季折々のライフスタイル」のコンセプトを意識して、イベント等のヒントにしていくと、四季彩の杜らしさがでる。
リス園計画では、動物保護の観点等、小動物との新しいふれあい方を考えて策定するといひ。

【1-2 花とみどりの魅力を活かした事業の展開】

○2023 町田さくらまつりについて

・芹ヶ谷公園会場では、コロナ等での注意しながらではあったが、にぎわった。一昨年の倍以上の来場者数となり、コロナ前の状態に戻った印象。
コロナを経てなのか、昨年に比べてキッチンカー等の出店が増えた。
⇒（事務局回答）

恩田川会場、尾根緑道会場も大変な賑わい。

今年は尾根の隣にできた忠生スポーツ公園にグリーンスローモビリティを走らせる予定。

○ガバメントクラウドファンディングについて

・クラウドファンディングは、ファンを作るのにいい取り組み。
町田市が観光をやる目的は、ファンを増やすこと。本当はファンがどれくらい増えたか計りたいところ。使い道は何か。返礼品はあるのか。
⇒（事務局回答）

さくらのクラウドファンディングはふるさと納税の一つで、昨年度は忠生スポーツ公園に17本のさくらを植樹した。返礼品ありのふるさと納税もある。

○観光ツアーについて

・観光ガイドによる案内を実施している。昨年は講習を実施し、観光案内人を新規で17名ほど認定した。

・観光案内人を公募する取り組みはすごくいい。
教えられる側から、教える側へと巻き込むことでファンを増やせる。
だんだん高齢化が進んできている中で、担い手を増やす取り組みになっている。

・観光案内人は、ツアーの時だけのガイドなのか、それともふらっと立ち寄った時もガイドしてもらえるのか。

⇒（委員回答）

現状、ツアーやイベント等、事前に予定したスケジュールでのガイドの対応をしている。

【2-1 人や情報が集まる観光ネットワークの創出】

○タマリズムについて

・タマリズムはどこが参加したのか

⇒（事務局回答）

南多摩5市（八王子市・日野市・稲城市・多摩市・町田市）で協働して開催をしている。町田市は、東洋大学と多摩大学の企画を実証実験で実施。その後、ドラフト会議で企業等にPRし、次年度以降は企業との連携につながっていくという仕組み。町田市では来年度も東京家政学院大学とイベントを実施予定。

・例えば、高校性が観光プロモーション動画を作る観光甲子園等の企画もある。高校生の探究の授業と絡むなど、若い人の発想は面白いので、機会があればうまく活用してもいいかもしれない。

【2-2 「まちなか」と「おくまち」の連携の強化】

・今後は相原にまちなかからの来訪を促す方針か

⇒（事務局回答）

地域の方々と一緒にやっという事で、相原地域の方は、相原まちづくり協議会を中心に自分たちで何かやっていきたいというお声をいただいたため、相原を取り上げる機会が多くなっている。

【3-1 ウィズコロナのシティセールスの推進】

○まちだ謎解きゲームについて

・まちだ謎解きゲームは、昨年度に引き続きのイベントになるが、市内のお店への影響はあったか。

⇒（委員回答）

町田商工会議所で把握している限りでは特になかった。問い合わせ等もなかった。

・実施期間はどれくらいか。ショートエリアでの実施か。

⇒（事務局回答）

まちだ謎解きゲーム第3弾は、2023年9月15日から2024年2月12日まで実施した。

イベントをやるだけでなく、市で推している薬師池等のエリアに行っていたきたいということを踏まえて、エリアを設定している。

・回遊をしているのか等、検証する方法はあるのか。

⇒（事務局回答）

まだ結果が全部出ているわけではないが、アンケートを実施して、参加者の意見を集めている。どこのスポットが良かったか、また来たいか等の項目でとっている。

また、消費金額等もとっていて、消費金額が1,000円以内の人は何%、1,000円～2,000円以内の人は何%のような項目もとっている。

○インバウンドについて

・外国の方の観光とかおでかけに対する需要に変化はあるか。

⇒（委員回答）

外国人の人数は増えてきている。国際交流センターの利用人数もコロナ前の水準に戻ってきている印象。

ただ、観光で来た日本語を習いたい方が増えているという実感はない。

【3-2 季節感をアピールした情報発信】

・目標は、四季に合わせて4回なのか。やはり町田市でも季節によって情報量は違うのか。

⇒（事務局回答）

季節によって発信できる情報量が違う。

春と秋はイベントや花等、四季折々の情報が多く、発信しやすい。逆に、特に冬は花の見ごろやイベント等も少ないため、発信しにくい。

・小田急電鉄ではいくつかの駅をピックアップして、駅周辺のウォーキングマップ等を作成しているが、これについては根強いファンがいる。マップや冬以外の季節の見どころを記載した小さい冊子を駅に設置し、利用者に活用していただいている。健康増進等の切り口で実施している。

・情報発信は、今後どれくらい戦略的にやるのか。

例えば、夏に発行される観光雑誌等に掲載するために、数ヶ月前・半年前から企画・情報発信をするなど、事前にスケジュールを細かく立てている企業などもある。1年を通して、季節をアピールするということであれば、むしろ閑散

期こそ資源の発掘や企画を練るなどして、狙った企画をやるのもいいのではないか。冬こそ目玉企画を作り、一方でメディア側にそれを届けるスケジュール感を作っていく等、今後やっていけるといいと思う。

⇒（事務局回答）

より計画的な情報発信を検討したい。

2023年度は冬にデジタルウォーキングラリーを実施している。冬だから歩きたい、寒いから外に出るきっかけになっていいというお声もいただいております、ご好評いただいている。50代以上の参加が多い。既存のアプリを活用している。コンプリート賞等、名産品の詰め合わせが抽選で当たる特典も用意している。

【3-3 ロケーションの支援】

・ロケ地の相談で多い場所はどこか。

⇒（事務局回答）

1番多いのは公園。また、町田市ならではのところだと、奈良ばい谷戸や薬師池の古民家等、他にはあまりない風景の場所が好まれている印象。

・ロケ支援の際には、「ぜひ町田市の色を出してください。町田市とわかるような場所をいれてください。」とあまり言わない方がいい。それをやるとあまり活用されなくなってしまう。今の時代、あえて発信しなくても口コミで広まるため、全面に押し出す必要はない。

また、あとから肖像権の問題等が発生し、PRしづらくなるので、使用したい場合は、事前の契約等でしっかり予め決めておくといい。

⇒（事務局回答）

権利関係は事前に気を付けていきたい。2023年度の案件の中には、町田市かどうかわからないような場所での支援も含まれている。そのあたりはうまく使い分けをしていきたい。

回数をこなすことによって町田市はロケを受け入れやすいまちという印象になると思うので、そういったところから町田市をPRできるような大きなロケにつなげていきたい。

(2) Jリーグサポーターに向けた魅力発信について

資料4に基づき、事務局から項目別に説明。

委員からの主な質問・意見等

・Jリーグが一つの起爆剤になるということだが、サポーター向けの情報発信

等でいい方法はあるか。

⇒（委員回答）

来訪された方に発信してもらうのがいいのではないか。例えば、広島県では100万人観光大使プロジェクトを実施しており、広島が好きなら誰でも観光大使になれるという取り組みで、自治体のファンづくりや市民・来訪者自身に情報発信してもらうことにつながっている。という事例もある。

・他の自治体等、研究しているのか。他市の事例等で町田市に合うものを探してみるのもいいのではないか。

一方でマイナスの側面も出てくる可能性があるので、ハードやソフト面で対策する必要がある。例えば、シャトルバスに並んでいる人がゴミを捨ててしまう等、マイナスの評判が出てくると、せっかくのこういった取り組みも続けられなくなってしまう。そのためにも待ち時間を楽しくするための場所づくりや企画があってもいいかも。

・試合後の待ち時間についても、時差で帰れるような仕組み・待ち時間を楽しめる取り組みがあるといい。例えば、日産スタジアムなんかでは、50台以上キッチンカーを呼んでいる例もある。そんな風に経済効果にもつなげていけるといい。簡単に帰れない事を逆手にとって、帰れないお客さんに市の魅力をPRするのもいいと思う。

・アクセスが悪いからこそその取り組みとかは、町田市だけで考えるのは限界がある。SNSからアイデアをもらう等、外部から拾っていくのもありだと思う。

4 今後の観光まちづくり推進委員会について

事務局から説明

5 その他

委員からの連絡事項は特になし

以 上